

8月30日(月)

私たちはどこに行くの？

聖書朗読 詩篇 139：1～2

「そこでも、あなたの御手が私を導き、あなたの右手が私を捕えます。」

詩篇139：10

子どもたちが小さかった頃、一緒に出かける時、子どもたちは決まって、「どこに行くの？」と聞いたものでした。最初の行き先を言うと、「それからどこに行くの？」とまた私に問い掛けます。「それからどこに行くの？」は、私が「それから家に帰るのよ」と言うまで繰り返されました。私たちも、神様に対しては、そんな子どもみたいです。「私たちはどこに行くのでしょうか？」「それから、どこへ」と私たちは神様にお尋ねし、常に先のことを知りたがりです。

詩篇139篇10節で描かれているのは、そういったことです。神様は右手であなたを捕え、左手で道を示してくださいますが、私たちは神様がこれから起こることを全て示してくださることを願っているのです。なんて愚かなんでしょう。

義理の母と歩くとき、彼女は私の腕を組みます。そうやって歩きながら何か危険なことが近づいたときには、それを義母に伝えます。でも私が義母に「来週、病院に行きますよ。そこの歩道は木の根が出っ張っているし、入り口には階段が3段あるから気を付けてくださいね」と言っても、それは義母の役に立つのでしょうか？大切なことは、私が義母に連れ添い病院に行き、義母を助けることです。木の根っこについて、義母が7日間も心配する必要はないのです。

同じように、神様は私たちを1歩ずつ導いてくださいます。私たちは、遠い未来のことは知らなくて良いのです。私たちは、自分の右手に神様を感じ、神様が道を示してくださる左手を見つめましょう。

讃美歌 270

祈り お父様。1歩ずつあなたのあとについて行くことができますように助けてください。私の不安な心を鎮め、先走るのを止めてください。

シャルロツテ・マイズ
テキサス州 ラボック

今日の力

2021年8月30日～9月5日

翻訳 村越克子
阿部 やよい

編集 野口 恵美子

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

8月31日 (火)

私のために立ててくださった神様のご計画

聖書朗読 詩篇 139:13~24

わたしはあなたがたのために立てている計画をよく知っているからだ。

エレミヤ29:11

自分自身を取るに足らない、つまらない人間だと感じたとき、私はエレミヤ書の中で見つけたお気に入りの聖句、11節と12節を読みます。神様は私に、そしてすべての人に、私たちが栄えて傷つくことのない計画を立ててくださり、そのご計画は希望と未来を与えてくれるものです。

神様が私のために立ててくださったご計画は、私が形作られるより前からあったものです。

神様を信じてバプテスマを受けることで私が救いに預かれるように、神様は計画してくださいました。さらに、神様は、天国で私がすべき良い行ないを用意してくださいました。神様は、私の友人たちや家族が誰であるかをご存じで、神様の愛が私を通して彼らに注がれるようにされています。今日、私が会う人のことや神様の恵みを必要としている人のことも知っていらっしやいます。

人間関係がうまくいかないとき、聖霊が、私が自分の力では持つことができなかった愛と喜びと平安を与えてくださいます。このような平安、信仰、知恵といった賜物を頂いているので、義と恵みをこの世にもたらす神様を辛抱強く待ちつつ、日常生活の問題に対処することができます。神様への確固たる希望は、自分ではよくわからないことがあっても、勇気を与えてくれます。神様のご計画はよいものであることを私は信じています。

讃美歌 213

祈り お父様、私のために、またあなたを信じることばに従うすべての人のために素晴らしいご計画を立ててくださいますことを感謝します。計画された永遠の家に最終的に到達する助けとなるものをあなたが与えてくださいましたことに感謝します。

イエス様のお名前によってお祈りし、感謝します。アーメン。

アイサー・ロバーツ
フロリダ州 チーフランド

9月1日 (水)

共依存（互いに助け合うこと）の素晴らしさ

聖書朗読 詩篇140:6~13

私の主、神、わが救い。あなたは私が武器をとる日に、私の頭をおおわれました。

詩篇140:7

現代文明にあって「共依存」ほど軽蔑されているものはほとんどないと言っているでしょう。この用語は一般的に、他の人のサポートなしでは生きられない可哀想な人のことを表現する時に用いられます。人々は往々にして、この可哀想な人が抱えている悩みを「共依存」ということばで表現します。テレビのトークショーでは、専門家は、こういった今日以前の問題は彼らが十分に自立していないことにあるのだ、他人に依存せずに自分自身で自立すべきなのだというのです。

確かに、そのような状況に陥った人々には同情します。でも、本当のところ問題は、彼らが誰に頼っているのかということです。聖書には、私たちは自分たちだけでは、すべてを行なうことはできないと書かれています。つまりプライドを捨て、へりくだって互いに協力しあい、神様に完全な信頼を置くべきだということです。私たちは神様に頼らなければならないのです。

このメッセージは、個人主義とは相いれません。個人主義では、自分が必要とするのは自分自身だけで、他の誰かに完全に依存するのは、いかにも軟弱に思われます。でも、主にある私たちは互いに助け合わなければなりません。私たちは一人では何もできませんし、神様なしでは私たちは何者でもないということを冷静に実感しなければなりません。

讃美歌 352

祈り 父なる主よ。プライドを捨てて、あなたのいつくしみと恵みに完全に頼ることを学ぶことができますように助けてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ケリー・ウィリアムズ
ミシガン州 ウォーターフォード

9月2日(木)

必死な人の祈り

聖書朗読 詩篇 142

私の叫びに耳を留めてください。私はひどく、おとしめられていますから。

詩篇 142:6

絶望は熱心な祈りにつながります。ICUにいる娘のベッドの傍らにひざまずいた私は、神様に祈りました。その祈りは、綺麗な言い回しや形に捉われない祈りでした。それはどうしようもない心からの叫びであり、必死な祈りでした。

詩篇 142 篇の絶望的な言葉に注目してください。「私は主に向かい、声をあげて叫びます——私は御前に自分の嘆きを注ぎ出し、私の苦しみを御前に言い表します——私の霊は私のうちで衰え果てています——私を顧みってくれる者もなく、私のたましいに気を配る者もいません——私の叫びに耳を留めてください。」それでもダビデは、絶望の中にあって自分がどこに行くべきかを知っていました。主にあわれみを請い、主に避け所を求め、「主よ。私はあなたに叫びます」と。そして、ダビデはそのような祈りの答えを知っています。主の御名はほむべきかな。主が良くしてくださるゆえに、正しい者たちが彼の周りに集まります。(7節)

待合室には教会の家族全員が待っていて、娘が回復したとき、彼らは私と一緒に神様をほめたたえました。絶望は希望に変わり、希望は喜びに、喜びは讃美に変わりました。「私は主に向かい、声を上げて叫びます。声をあげ、主にあわれみを請い——私があなたの御名に感謝するようにしてください。正しい者たちが私の回りに集まることでしょう。あなたが私によくしてくださるからです。」

讃美歌 318

祈り ああ、主よ。あなたは私にずっと良くしてくださいました。あなたは真実なお方です。お父様、あなたをほめたたえます。私が差し迫った祈りを捧げた絶望的な時に、優しいあわれみをかけてくださいました。そのような時にもあなたがほめたたえることができますように。

イエス様のお名前によって。アーメン。

デビッド・ベアデン

アラバマ州 タスカルーサ

9月3日(金)

夜の歌

聖書朗読 詩篇 144:1~10

あなたの神、主は、あなたのただ中におられる。救いの勇士だ。主は喜びをもってあなたのことを楽しみ、その愛によって安らぎを与える。主は高らかに歌ってあなたのことを喜ばれる。例祭から離れて悲しむ者たちをわたしは集める。

ゼバニヤ 3:17~18

朝早く、心のなかで歌いながら起きるのが好きです。私の魂は主に向かって歌い、主は聖書のみことばで私に答えてくださいます。

ラブソングはこの世のためだけのものではありません。ラブソングは、神と神の民から始まりました。主がイスラエル人をエジプトから救い出した後、モーセは人々と勝利の歌を歌いました。

神の民が戦いに入るときは「賛美者たち」が先を歩きました。彼らは歌い、勝利をもたらしてくれる主を賛美しました。

ラブソングに心を動かされたときのことを覚えていますか？ラブソングを聞くと安心と希望で心が満たされます。神を賛美するとき、私たちのところは真実で満たされます。そして自分が価値あるものであると感じさせてくれ、安心感を与えてくれます。神を賛美するとき、神がそこにおられることを感じます。自分の声を、心を神に向けたとき、神の存在は、私達の自信と喜びのレベルを引き上げてくださいます。私達の賛美の中に神がいます。神は神の民の賛美の中に存在します。

朝起きたら神に向かって歌いましょう。自分の声がイマイチと思うかもしれませんが、神はあなたの歌が大好きです！

讃美歌 271

祈り 親愛なる素晴らしき神、あなた様の大きな愛に感謝いたします。私達はあなた様を愛し、いつのときもあなた様に向かって歌を歌います。

あらゆるものの名にまさるイエス様の御名によって。アーメン。

ジョアン クレイトン

9月4日(土)

主を賛美せよ

聖書朗読 詩篇 145:1~8

主、わが力。あなたを慕います。

詩篇18:1

私は愛する人たちに直接会うことが好きです。あなたもですよね?子供たちが大きくなった今は、子供たちや孫たちが会いに来てくれるのを楽しみにしています。私は彼らに直接会うことができ幸せです。

神もそうです。私達が喜んでいられるのを、神もまた喜んでおられます。主への賛美は祈りにおいて極めて重要な位置を占めます。子どもたちは、私達が神に仕える姿、神を信じる姿を見て学びます。

主とともにある時間を楽しみに待ち、そして主とともに過ごしましょう。主を賛美しましょう。主は賛美に値する御方であると声に出して言いましょう。神の偉大な御業を賛美いたします。神の御名を賛美し、認め、褒め称えましょう。神の御名はあらゆるものの名に勝ります。

主の大きな愛に感謝いたします。主によって喜びましょう。日常の道と永遠の命への道を歩んでいきましょう。これらのことを覚えていけば、あなたの祈りの生活は豊かなものになるでしょう。

夜が明け、影が消え去ったとき、神はそこにおられます。日が落ち、夜が訪れるとき、神はそこにおられます。神のあなたと私への愛は永遠です。神はいかなる時も子たちのことを考えておられます。神の恵みは私達すべてを覆い尽くします。神は私達とともに歌って下さっています。よろめいて倒れたとき、神はそこにおられ、私達を抱き上げてくださいます。神は私達の栄光の望みです。

讃美歌 492

祈り 親愛なる主、あなた様の御名を賛美いたします。御名はあらゆるものの名に勝ります。貴方様の素晴らしい御業を褒め称えます。なんと素晴らしい神なのでしょう。

イエス様の美しいお名前によって。アーメン。

ボブ マイズ
テキサス州 ルボック

9月5日(日)

我が神、我が王

聖書朗読 詩篇 145:9~21

主よ。あなたの造られたすべてのものは、あなたに感謝し、あなたの聖徒はあなたをほめたたえます。
詩篇 145:10

ある著名な神学者が、古代イスラエルの歴史と神との関係を記して神の不可能性と呼ぶものについて書いています。まず、神が選ばれた町とその民の破壊を宣言し、そして次に、バビロン捕囚の中、選ばれた町とその民の修復を宣言しました。それぞれの予言的な宣言は、予期せぬもので、衝撃的であり、人生を変えるものでした。両方ともイスラエルの神との契約関係に対する圧倒的な力と支配を世に示しました。この神が王として君臨しているのです!

私たちが最初に耳にする不可能は医者からの予期しないこの言葉かもしれません。「病名はガンです。」そしてある日、2回目の衝撃的な宣言「ガンは消えました。今日から、あなたはガンサバイバーです」を聞くのです。もし、王である神のめぐみによって、私たちが生き延びたとき、私達の旅は大きく変わります。

私達の神の不可能性がどんなものであれ、私達は、癒やしと、修復、私達の叫びを聞き、神を畏れ愛する人々に寄り添う神の力を語る目撃者です。聖書で書かれているように、「神の偉大さは計り知れません。」我が王は、終わることのない賛美に値する御方です。

讃美歌 77

祈り 我が神、私達の叫びを聞き、それに力強く答えてくださり、救い、癒やし、修復し、そして変えてくださるあなた様に感謝いたします。あなた様の御子、我が主であられるイエス・キリストを通して与えてくださる真実、めぐみ、慈悲、慈愛を信じ続けることができますように。アーメン。

クレイグ ボウマン
ミシガン州 ロッチェスター